

赤ちゃんの健康観察のポイントと事故防止

○ 健康観察のポイント

赤ちゃんが健康かどうかは、普段の観察で分かります。全身状態を見て判断しましょう。

小さな不安や気がかりを気兼ねなく相談できるように、かかりつけの小児科をつくっておきましょう。

ふだんの様子と違いますか？

Q 機嫌はいいかな？

Q 母乳やミルクは吐かないかな？

Q ぐったりして、
動きが少くないかな？



Q 食欲はあるかな？

Q 夜泣きをしないかな？

Q 熱はないかな？

Q 便の回数、色、硬さはどうかな？

○ 赤ちゃんの病気と看護のポイント

発熱 する



- ・熱が高いときは脱水症状を防ぐために水分補給をする。
- ・汗をかいたら、からだを拭いて清潔にし、ぬれた衣服はこまめに替える。
- ・頭やわきの下などを冷やす。

せき ができる



- ・加湿器などで、部屋の湿度を50～60%に保つ。
- ・消化の良いものを少しずつ何回かに分けて与える

発疹 がでた



- ・症状がなくなっても、主治医の許可が出るまでは治療を続ける。
- ・発疹をいじったり、ひっかかないように気をつける。

ひきつけ をおこした



- ① あわてない
ひきつけは数分間で止まります。命にかかわることはまずありません。
- ② 何もしない
口の中に指や箸を入れない（舌をかむことはないため）。大声で呼んだり体をゆすったり抑えつけない。
- ③ 楽な姿勢で
体を横に寝かせ、服をゆるめる。吐きそうなしぐさをしたら、体ごと横向きにして、吐いたものがのどにつまらないようにする。
- ④ 観察をする
あとで主治医に詳しく伝えられるように、けいれんの様子をよく見る。
- ⑤ 受診をする

下痢 をしている



- ・おむつは汚れたらすぐに取り替えお尻はいつも清潔にしておく。
- ・脱水症状を防ぐために、こまめに授乳などで水分の補給をする。
- ・市販の下痢止めを勝手に使わず主治医の診療を受ける。
- ・感染症の場合もあるので、必ずおむつを替えたら手洗いをする。
- ・便について心配なことがあれば、便を主治医に診てもらおう。

● 日本小児科学会「こどもの救急」ホームページ
<http://kodomo-gg.jp/index.php>

● 子ども医療電話相談事業

電話番号：#8000（全国同一の短縮ダイヤル）

受付時間：平日 19時～翌朝9時

土曜 13時～翌朝9時

日曜・祝日 朝9時～翌朝9時

○ 赤ちゃんの事故防止

赤ちゃんは6か月を過ぎる頃から何でも口に入れようとします。危険と思われるものは、赤ちゃんの手の届かないところに保管しましょう。例) たばこや化粧品、硬貨など。

家庭でできる 応急手当

異物を吐かせる

のどに物がつまったら、
左の腕に子どもをうつむ
せで頭を下向きにし、背
中を強く4～5回たたき
ます。



もし「誤飲」したら・・・

赤ちゃんが誤って何かを飲み込んだときには、水や牛乳を飲ませ吐かせるのが原則ですが、例外もあるので注意しましょう。
(吐かせてはいけないもの: 強酸や強アルカリを含む製品 漂白剤・トイレの洗剤等)

★すぐに確認すること

- 1 意識はどうか
- 2 何を飲んだか
- 3 どのくらいの量を飲んだか
- 4 いつ飲んだか

★受診のポイント

飲んだものの容器や残り、説明書などを
持って受診しましょう。

薬品や有害物質を飲み込んでしまったら・・・

公益財団法人 日本中毒情報センター

化学物質(たばこ、家庭用品など)、医薬品、動植物の毒などによって起こる急性の中毒について情報提供、相談が行われています(異物誤飲(小石、ビー玉など)、食中毒、慢性の中毒、常用量での医薬品の副作用は受け付けていません)。

<https://www.j-poison-ic.or.jp>

大阪中毒110番 ☎ 072-727-2499 (24時間365日対応)

つくば中毒110番 ☎ 029-852-9999 (9時~21時365日対応)

たばこ誤飲事故専用電話 ☎ 072-726-9922

(無料(テープによる情報提供)24時間365日対応、自動音声応答による情報提供)